

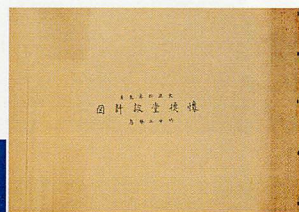
重建懷徳堂の復元

平成に入り、懷徳堂文庫資料の総合調査が始まりました。その際、貴重資料の中に、重建懷徳堂の設計図(青焼き)が残っていることが判明しました。

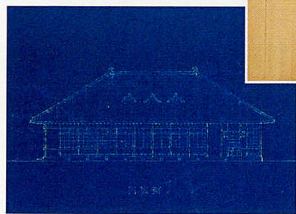
大阪大学文学研究科では、当時の設計・施工に当たられた竹中工務店を訪問し、この資料を確認していただいたところ、この図面が当時の本物(実物)であること、この図面は現在竹中工務店には残っていないこと、この図面に基づいて復元模型を制作することが可能であること、などの情報を得ました。

そこで、交渉の結果、竹中工務店の御厚意により、50分の1サイズの精密な復元模型を1基、100分の1サイズの模型を2基制作して、大阪大学に寄贈していただけることとなりました。大阪大学文学研究科では、2005年10月11日、受贈式典を挙行了しました。現在、50分の1サイズの復元模型は文学研究科の玄関に、100分の1サイズの模型は大阪大学総長室、および中之島センターに展示しています。

この模型によって、大阪の持つ文化力と、学問に寄せた当時の人々の熱き思いを実感いただければ幸いです。



重建懷徳堂設計図(表紙、側面図)



受贈式典の様子



文学研究科玄関に設置された復元模型



■ 重建懷徳堂

地 所／大阪市東区豊後町19番地
(現在の中央区本町橋、大阪商工会議所)
敷地面積／361坪
建 物／講堂(木造平屋)、事務所(木造二階建)、
書庫・研究室棟(鉄筋コンクリート三階建)
講堂規模／縦26m×横16.4m、床面積425m²(126坪)

■ 設計図面

全5枚綴り。各縦51.5cm×横74.5cm。
表紙に「大正四年九月 懷徳堂設計図 竹中工務店」

■ 重建懷徳堂復元模型(縮尺1:50、単位mm)

外観寸法(講堂、門、敷地、外堀を含む)：1200×900
アクリルケース寸法：1230×930×430
主材質：硬質紙・モデルボード・プラスチック・木

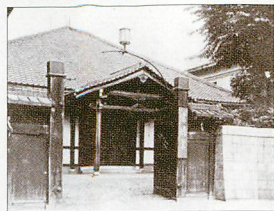
重建懷徳堂 復元模型



大阪大学文学研究科・(財)懷徳堂記念会

重建懷徳堂の歴史

大阪大学文文学部の源流と位置づけられている「懷徳堂」は、享保9年に創設され、江戸時代の後半約140年にわたって大阪の学術の発展と商道德の育成に貢献しました。幕末維新の動乱により、明治2年(1869)にいったんその歴史を閉じますが、多くの市民の要望により大正5年(1916)に再建されます。



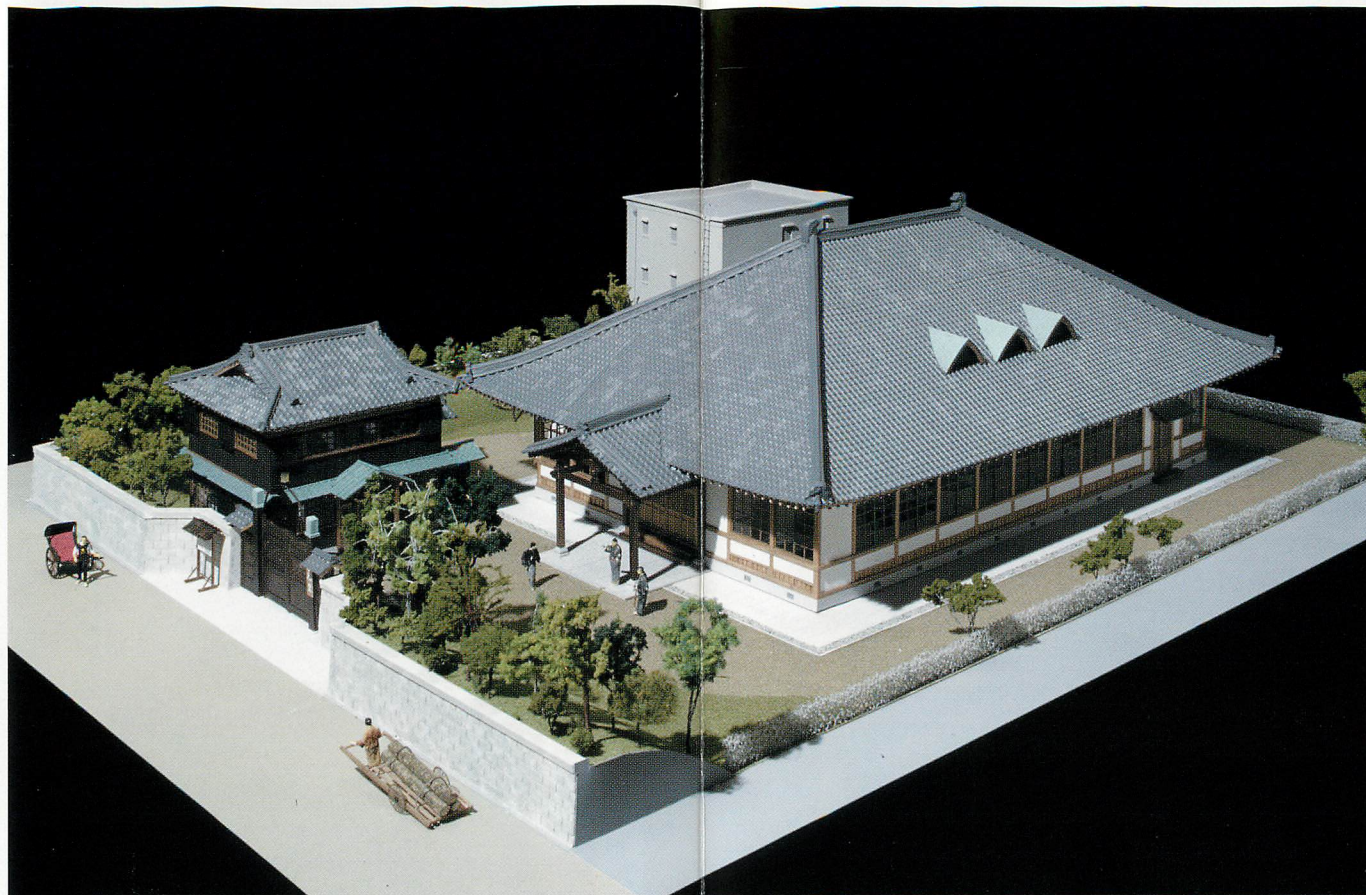
重建懷徳堂外観

再建された懷徳堂(「重建懷徳堂」)は、昭和20年(1945)の大阪大空襲によって焼失するまで、水準の高い学問を学ぶことのできる大阪の市民大学・文科大学として親しまれてきました。講堂は焼失しましたが、幸いに戦災を免れた書庫所蔵の3万6千点の資料は、昭和24年(1949)、文学部の設立を機に、財団法人懷徳堂記念会から大阪大学に寄贈されました。



重建懷徳堂の書庫・研究室棟

- 1724(享保 9) 懷徳堂創設。
- 1869(明治 2) 江戸時代の懷徳堂閉校。
- 1910(明治43) 懷徳堂記念会設立。
- 1913(大正 2) 懷徳堂記念会、財団法人として認可される。
- 1915(大正 4) 6月、講堂敷地として府立大阪博物場の西北隅(大阪市東区豊後町19番地)に当たる361坪の無償使用の許可を得て、懷徳堂再興の議が決定。10月、地鎮祭執行。
- 1916(大正 5) 9月、重建懷徳堂竣工。10月15日開講式挙行。
- 1923(大正12) 孔子没後2400年記念刊行として、『論語義疏』出版。
- 1926(大正15) 10月31日、鉄筋コンクリート造り3階建ての書庫・研究室棟竣工。『懷徳』創刊。
- 1945(昭和20) 3月14日、大阪空襲により、書庫を除く講堂・事務所を焼失。
- 1949(昭和24) 懷徳堂記念会、貴重資料3万6千点を大阪大学に寄贈。「懷徳堂文庫」として調査・研究が開始される。



左:事務所棟/中央:講堂/奥:書庫・研究室棟

